

## 資料 4

各部会の令和 7 年度中間活動報告について

令和 7 年 10 月 17 日



# 令和7年度「地域生活支援拠点等検討部会」中間活動報告について

## 1 開催日時

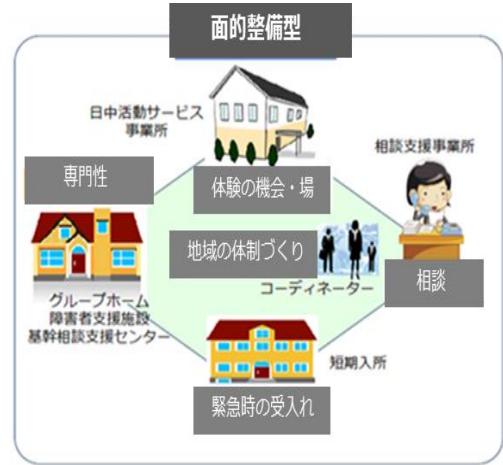
第30回地域生活支援拠点等検討部会 令和7年 6月27日（金）

第31回地域生活支援拠点等検討部会 令和7年 9月26日（金）

## 2 検討事項

障害者の高齢化、重度化や「親亡き後」を見据え、居住支援のための機能を整備し、障害者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制の構築として地域生活支援拠点等（以下「拠点」という。）を令和2年度末までに面的整備を行い、令和3年度から運用を開始しました。

今年度の当部会では引き続き、拠点の充実のため整備するべき機能のうち「体験の機会・場」、「専門的人材の確保・養成」の機能を中心に検討を進めています。



## 3 部会員

団体等名	氏名
医療法人 成精会	垣田泰宏（部会長）
社会福祉法人 觀寿々会	橋口磨理子
刈谷市障害者支援センター	相澤道子
刈谷市民生委員・児童委員連絡協議会	間瀬菜穂子
刈谷市社会福祉協議会	梅本秀之
社会福祉法人 ひかりの家	武田夏楓
株式会社 悠	外山浩章
刈谷市肢体不自由児・者父母の会	野々山厚子
刈谷手をつなぐ育成会	佐原眞由美
刈谷地域精神障害者家族会	長谷川宏

#### 4 検討経過

今年度も、昨年までの運営評価の中で、評価が低かった「体験の機会・場」「専門的人材の確保・養成」機能の検討を行っています。第30回部会では、グループホーム体験の利用促進に向けた意見交換、体験の機会・場の機能として一人暮らし体験利用制度確立の報告・意見交換を行いました。第31回部会では、一人暮らし体験施設である観寿々会の「福うさぎ」にて部会を開催し、一人暮らし体験制度の周知に向けた意見交換、地域の体制づくりとして障害分野と高齢分野の交流についての報告を行いました。また、部会終了後は相談支援専門員の方とともに体験施設を見学し、利用促進に向けた意見交換会も行いました。

なお、専門的人材の確保・養成については、事業所代表として参加している部会員を中心に検討を行いました。人材の「確保」に向けた取組として、愛知教育大学へ赴き、講師や一般就職支援を担っているキャリア支援課の職員との情報交換を行い、アプローチ方法の模索等、確保施策を探りました。

回数	開催日	内容
第30回部会	6月27日	<ul style="list-style-type: none"><li>・グループホーム体験利用後の効果検証について</li><li>・一人暮らし体験利用制度について</li><li>・専門的人材の確保について</li></ul>
第31回部会	9月26日	<ul style="list-style-type: none"><li>・一人暮らし体験利用制度について</li><li>・地域の体制作り 障害分野と高齢分野の交流について</li><li>・専門的人材の確保について</li></ul>

#### 5 検討結果

##### 拠点の充実のため整備するべき機能について

今年度検討・整備を進めている内容の進捗状況は、(1)～(3)のとおりです。

###### (1) グループホームの体験利用について

体験利用者の実績について情報共有し、利用促進について検討しました。

引き続き利用者への周知を図るとともに体験利用後の調査実績の積み上げを行い、地域移行への課題等を抽出し、体験方法やプログラムの改善、地域移行への取組等を検討していきます。

###### (2) 一人暮らし体験利用の整備について

一人暮らしの体験が可能な「体験の場」について、居室を利用した体験制度及びグループホームのサテライト型住居を利用した体験制度の2パターンで体験ができるように制度を整備しました。利用者向け、支援者向けそれぞれのパンフレットを作成し、体験制度の周知・利用促進に向けた検討をしていきます。

### （3）専門的人材の確保・養成について

専門的人材の「確保」について検討しました。愛知教育大学へ赴き、情報交換・アプローチ方法を話し合い、確保施策を検討しました。  
引き続き、情報収集を図るとともに取組方針等について検討していきます。

## 6 今後の検討事項

引き続き既存の機能（「相談」、「緊急時の受入れ」）の現状確認に加え、「体験の機会・場」、「専門的人材の確保・養成」機能の充実に向け検討を行います。また、地域の体制づくりとして障害分野と高齢分野の交流を進めるとともに、令和7年12月までの取組について運営評価を行います。

回	開催予定日	内容
第32回部会	2月20日	<ul style="list-style-type: none"><li>・グループホーム体験後の効果検証について</li><li>・一人暮らし体験利用制度について</li><li>・地域の体制づくりについて</li><li>・運営評価及び次年度の取組について</li><li>・人材確保施策について</li></ul>

## 7 福祉人財研修検討チームの活動状況について

市内福祉事業所の人材育成・スキルアップ、障害者理解を図るため研修内容（テーマ）を協議・検討し、次のとおり研修を実施しております。

回数	開催日	内容	申込人数	参加人数
第1回研修	9月12日	虐待防止研修	36事業所 69名	36事業所 66名
第2回研修	12月13日	虐待防止研修		
第3回研修	未定	喀痰吸引3号研修		
第4回研修	未定	ケース検討研修		

## 参考

地域生活支援拠点等で整備する5つの柱（機能）について

機能	内容
①相談	基幹相談支援センター、委託相談支援事業、特定相談支援事業とともに地域定着支援を活用してコーディネーターを配置し、緊急時の支援が見込めない世帯を事前に把握・登録した上で、常時の連絡体制を確保し、障害の特性に起因して生じた緊急の事態等に必要なサービスのコーディネーターや相談その他必要な支援を行う機能
②緊急時の受入れ・対応	短期入所を活用した常時の緊急受入体制等を確保した上で、介護者の急病や障害者の状態変化等の緊急時の受け入れや医療機関への連絡等の必要な対応を行う機能
③体験の機会・場	地域移行支援や親元からの自立等に当たって、共同生活援助等の障害福祉サービスの利用や一人暮らしの体験の機会・場を提供する機能
④専門的人材の確保・養成	医療的ケアが必要な者や行動障害を有する者、高齢化に伴い重度化した障害者に対して、専門的な対応を行うことができる体制の確保や、専門的な対応ができる人材の養成を行う機能
⑤地域の体制づくり	基幹相談支援センター、委託相談支援事業、特定相談支援、一般相談支援等を活用してコーディネーターを配置し、地域の様々なニーズに対応できるサービス提供体制の確保や、地域の社会資源の連携体制の構築等を行う機能

## 令和7年度「就労支援部会」中間活動報告について

### 1 開催日時

第50回就労支援部会 令和7年 6月 3日

### 2 部会員

団体等名	氏名
認定特定非営利活動法人 パンドラの会	坂口 伊久磨（部会長）
特定非営利活動法人 くるくる	手嶋 雅美
パッソ刈谷校	大城 盛一郎
LITALICO ワークス刈谷	濱嶋 健
刈谷市障害者支援センター	梶 佳稔
西三河南部西障害者就業・生活支援センター	川村 顯治
刈谷商工会議所	岡田 行永
刈谷公共職業安定所	早川 智洋
愛知県立安城特別支援学校	加藤 昌子
刈谷市立刈谷特別支援学校	佐伯 忍
商工業振興課	北洞 貴康

### 3 報告事項

#### （1）第49回刈谷市障害者自立支援協議会就労支援部会に関する報告について

第49回刈谷市障害者自立支援協議会の場で就労支援部会の取組み等について報告した内容について部会員間で共有しました。

#### （2）雇用セミナーについて

昨年度の雇用セミナーでは、障害者雇用のイメージ改善や参加者の自信の向上など、良い成果が得られました。具体的には、発表者の勤める企業から発表の場の継続を望む声が上がり、また参加企業からは障害者雇用に対する新しい認識が生まれた様子でした。今年度もこの取り組みを継続して開催する方針が決定し、対面開催を中心に、一部ハイブリッド形式で実施する予定です。具体的な内容についてはワーキンググループで検討を進める予定です。なお、開催日時、場所等は以下のとおりです。

【開催日時】令和8年1月22日（木）午後1時～4時

【会場】刈谷市産業振興センター6階 604会議室

### （3）就労支援に関する課題解決に向けた取り組みについて

昨年度までの部会で抽出された3つの課題解決に向けた取り組みについて意見交換を行いました。

#### ア 就労選択支援について

6月の就労支援部会の時点では、就労選択支援の実施事業所や具体的な実施方法について、まだ明確化されていない状況です。今後、部会を重ね、必要な情報を収集していく予定です。

#### イ 就労継続支援A型、B型からの一般就労促進

就労支援連絡会にて、就労移行支援事業所や一般就労の促進に取り組んでいる事業所から話を聞く機会を設けることについて調整を進めています。

#### ウ 学校卒業後の就労定着支援

現状の課題として、障害者就業・生活支援センターの対応が十分に追いついていない点が指摘されました。この解決策として、市が就労相談員を配置する必要性が議論されており、現在は他市における相談員の配置状況を調査している段階です。

## 4 今後の取組み及び検討事項等

### （1）令和7年度の障害者雇用セミナーについて

ワーキンググループを中心に、当日のプログラム等、詳細な内容や実施方法を検討し、セミナーを開催します。

### （2）就労支援に関する課題解決に向けた取組みについて

各課題について、部会員から挙げられた意見を踏まえ、具体的な取組みについて検討を行います。

## 令和7年度「相談支援部会」中間活動報告について

### 1 開催日時

第72回相談支援部会 令和7年 5月20日（火）

第73回相談支援部会 令和7年 9月18日（木）

### 2 部会員

団体等名	氏名
刈谷市障害者支援センター	伊澤 紀明（部会長）
社会福祉法人 ひかりの家	山田 哲哉
社会福祉法人 觀寿々会	酒井 克朗
刈谷市社会福祉協議会	神谷 清美
株式会社 悠	外山 浩章
株式会社 エイト	竹内 弓理
株式会社 こもれび	佐々木 亜紀子

### 3 報告事項

#### （1）第72回相談支援部会（令和7年5月20日開催）

##### ア 市内相談支援事業所における事業報告

（件）

事業所名	一般相談	計画相談
刈谷市基幹相談支援センター灯	2,053	0
相談支援事業所こころ悠々	3,056	5,599
子どもと福祉の相談センターひかりのかけ橋	2,389	4,156
刈谷市社会福祉協議会障害者支援事業所	0	3,522
特定相談支援事業所ペガサス・Ⅱ	0	2,027
相談支援事業所タッチ	0	761
こもれび第3	0	506
合計	7,498	16,571

##### イ 相談支援体制について考えるワーキンググループの活動報告

刈谷市の相談支援体制の充実に向けた課題解決を検討するワーキンググループでは、相談支援員の業務過多やサービス報酬に注目し、機能強化加算の取得及び相談支援事業所同士の連携を強めるため、相談支援事業の複数事業所による協働モデルについて検討を行いました。検討の結果、まずは、2つの事業所で協働モデルを実施する方向性で検討が進みました。また、障害児通所支援の申請範囲の見直しについても話し合いを行い、申請できる範囲を狭めることも一つではないかという意見がありました。

## ウ 地域課題への取組みについて

今年度、取り組む地域課題について検討を行いました。地域課題としては、以下の内容が挙がり、その中でも「福祉と教育との連携」について今後、検討をするとよいのではという話し合いになりました。

- ①一歩出られない人達への支援や本人が参加できる場づくり
- ②65歳到達による介護保険移行の進め方
- ③学校への通学から事業所への通所に変更する際の橋渡し
- ④家族会や家族コミュニティの周知
- ⑤包括的支援を行うための他機関連携
- ⑥相談支援事業所の体制づくり
- ⑦福祉と教育との連携
- ⑧母国語が日本語以外の世帯の支援体制

## (2) 第73回相談支援部会(令和7年9月18日開催)

### ア 相談支援部会に関する各連絡会報告

各連絡会の活動報告を行い、そこで話し合われた困難事例や地域課題、その解決策等について共有をしました。

#### <相談支援連絡会>

相談支援連絡会では、事例検討から解決策を検討しました。

#### 【事例】

30代男性、知的障害、特別支援学校卒業後、生活介護と日中一時支援、移動支援を利用していた。環境の変化に順応するのに時間がかかり、不安を抱え他者を叩くなどの他害をしてしまうことがある。家族に病気が見つかり、治療のため短期入所の支給量を増やしたい旨の相談があり、一時的に支給量を増やすことになった。手術を行うも治療継続のため短期入所を利用したい旨の相談があった。入所若しくは入居を考えるか、現状の支給量の中でサービスを組み合わせて利用していくかを提案したところ、現状の支給量で頑張っていきたいと希望された。複数の事業所を利用した場合、支給量を超えることになることが想定される。

#### (意見交換内容)

- ・母の体調が安定するために、短期入所を利用していく。本人が環境に慣れるようお試しで1、2か月利用できるとよい。
- ・母へのフォローとして、医療ソーシャルワーカーなどの相談員をつけるとよい。長い見通しで、生活保護を検討してはどうか。
- ・本人にとって日中一時支援が居場所の一つになっているため、柔軟な

利用ができるとよい。

- ・自宅で本人が過ごせるように居宅介護の利用をしてはどうか。

(地域課題の解決方法)

**家族支援の方法**

連携を取るための会議で取組み等を検討する。

**サービス利用**

共生型の施設やサテライト型G Hが増えるとよい。

**地域とのつながり**

地区に障害分野のキーマンがいるとよい。

<くらしと通所の連絡会>

くらしと通所の連絡会では、各事業所の紹介及び個別支援計画について話し合いを行いました。

(意見交換内容)

- ・支援開始を急がれることがあり、個別支援計画を立てる時間が十分に取れないことがある。
- ・時間をかけて本人のA D Lやニーズを知ることが多い。
- ・発語困難な方など、意思の確認が難しい方に対し、本当のニーズを拾えているのかと感じことがある。
- ・作業面やコミュニケーション面、生活面など、本人の気持ちに沿った目標を立てることができているか事業所会議等、複数の支援者の目で確認をしている。
- ・サービス等利用計画に沿って個別支援計画を作成することを基本としている。
- ・金銭面の管理を支援していても、スマホでの支払いなどを利用すると管理ができない。計画に組み込みにくく、解決にも時間がかかる。

<地域生活支援連絡会>

地域生活支援連絡会では、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムを構成する要素（地域精神保健及び障害福祉、精神医療提供体制、住まいの確保と居住支援、社会参加、当事者・ピアサポートー、精神障害を有する方等の家族、人材育成）について話し合いを行いました。

(意見交換内容)

**地域精神保健及び障害福祉**

- ・病院から見て退院支援が進ませにくい患者など、意見や思いを一緒に

話し合える機会があるとよい。

- ・相談を受けた支援者用にフローチャートを作れたらよい。住まいや地域の資源、民生委員等の情報をジャンル別一覧にして、事業所や相談できる窓口を地図にピックアップする。どのような流れで相談するか、どこで何の相談ができるか分かるとよい。

#### 精神医療提供体制

- ・精神科は予約必須というハードルがある。
- ・障害、包括、行政と連携するような虐待ケースが増えてきているが医療機関との関わりが難しい。

#### 住まいの確保と居住支援

- ・不動産屋や大家さんがなかなか貸してくれない現状がある。居住支援法人とのネットワークで不動産屋の現状を知る。
- ・精神障害の人が利用できるグループホームの一覧表があるとよい。

#### 社会参加

- ・何をもって社会参加とするのかイメージが湧きづらく、方針が曖昧である。
- ・家族会同士で交流を作るとつながりを広げられるのではないか。地域や相談員が家族会の内容をよく理解しきれていないため、どのようなことを行う会なのかを周知してもらう。

### <地域包括交流会>

地域包括交流会では、障害、高齢のそれぞれの支援についての説明会及び意見交換を行いました。

#### (意見交換内容)

- ・8050問題について、子どもではなく親が困っていることが多く、どう支援するか悩むことがある。親が背負ってしまい、相談が後回しになっている。年齢など期限を決め、解決に向けてのきっかけ作りができるとよい。
- ・65歳の障害福祉サービスから介護保険サービスへの制度移行について、早めに情報を伝えているがなかなか理解が得られない。理解が得られるようにシステム化してイメージ作りができるとよい。
- ・高齢者だけでなく、障害者等も行ける共生型のサロンがないため、誰しもが行けるサロンがあるとよい。
- ・65歳になると障害福祉サービスから介護保険制度に移行するが、介護保険制度の自己負担額に対して難色を示す方が多い。
- ・就労継続支援B型に通所する高齢者の方が増えており、障害特性以外の高齢に伴う配慮が必要な方とその他の利用者との間のハード面やソ

フト面の配慮が必要になってきている。

#### イ 相談支援体制の充実に向けた取組みについて

以前より相談支援体制の充実が課題として挙がっており、多くある地域課題の中でも、特に優先して解決すべき課題となっていたため、相談支援体制の充実に特化した相談支援部会のワーキンググループで課題解決に向けた話し合いを行ってきました。その中で、課題解決の一つの手段として、令和3年度の報酬改定により新たに設けられた複数事業所の協働による相談支援の体制整備について検討を行いました。内容としては、機能強化加算の取得及び相談支援事業所同士の連携を強めるため、相談支援事業の複数事業所による協働モデルについて検討を行いました。この仕組みを活用した体制整備には、相談支援事業所の経営の改善、強化、相談支援専門員の増員及び地域における相談支援の質の向上につながることが期待されています。本市でも本制度を活用するため、必要事項を確認するとともに、実現性について話し合いを行いました。

#### 4 今後の取組み及び検討事項等

複数事業所の協働による相談支援の体制整備について、事業開始時期を検討するとともに、実施事業所の選定を行っていく予定となっています。

また、障害児通所支援の申請範囲の見直しについての検討も行っていきます。

## 令和7年度「子ども部会」中間活動報告について

### 1 開催日時

第30回子ども部会 令和7年 6月10日（火）

### 2 部会員

団体等名	氏名
刈谷市社会福祉協議会	神谷清美（部会長）
社会福祉法人 ひかりの家	山田哲哉
医療法人 成精会	水野美香
刈谷特別支援学校PTA	小林歩美
安城特別支援学校PTA地区別懇談会 刈谷交流会	太田佳世子
らっこちゃん親の会	宮田志保子
刈谷児童相談センター	鈴木雄二
刈谷市立刈谷特別支援学校	高橋友香
愛知県立安城特別支援学校	加藤則子
子育て支援課	角岡篤樹
学校教育課	佐藤裕一

### 3 報告事項

#### （1）子ども部会における検討内容等

子育て支援セミナーの開催にあたり、テーマや講師の候補等について検討しました。

テーマについては、昨年度に引き続き、性に関することについて聞きたいという意見や親亡き後等の意見が出ました。性に関することについては、昨年度定員超過により参加できなかった人がいるという理由から第一候補となりました。

講師については、昨年度ご講演いただいた伊藤修毅氏が候補として挙げられました。

セミナーの開催方法については、昨年度と同様、保護者同士の関わりを深めるために対面で行い、具体的な内容等、詳細についてはワーキンググループを設置し、そこで検討を進めることになりました。

## （2）子育て支援セミナーワーキンググループにおける検討内容

7月7日（月）、8月27日（水）にセミナーの具体的な内容についての検討が行われました。テーマについては、昨年度に引き続き、障害のある子どもたちの性に関することで決定しました。

講師についても、部会員の意見より引き続き伊藤修毅氏に講演を依頼することになりました。

検討の結果、以下の内容で決定しました。

【開催日時】令和8年1月29日（木）午前10時～正午

【会場】刈谷市社会教育センター401研修室・和室（託児所）

【講師】伊藤修毅（いとうなおき）氏

【テーマ】「障害のある子どもたちの性と生」（未確定）

【定員】60名

## （3）支援学校、支援級の状況について

刈谷特別支援学校、安城特別支援学校及び刈谷市内の特別支援級等に在籍する児童の人数や各学校の支援体制、現在課題となっていることについて説明がありました。増加傾向にある障害児に対して、各学校とともに、より良い支援方法について検討をしているという内容でした。

## 4 今後の取組み及び検討事項等

### （1）子育て支援セミナーについて

部会やワーキンググループで広報や当日のタイムテーブル等について話し合い、セミナーを開催します。

### （2）所属機関の抱える課題解決に向けた取組みについて

課題について、部会員から挙げられた意見を基にして、具体的な取組みについて検討を行います。

## 令和7年度「障害者防災部会」中間活動報告について

### 1 開催日時等

第1回障害者防災部会 令和7年 7月15日

### 2 部会員

団体等名	氏名
刈谷市社会福祉協議会	川口剛史(部会長)
刈谷西部自主防災会	大野裕史
刈谷市民生委員・児童委員連絡協議会(障害者福祉部会)	間瀬菜穂子
刈谷防災ボランティア	金丸光邦
社会福祉法人 觀寿々会	酒井克朗
自立生活センターアクセル	佐藤元紀
刈谷市身体障害者福祉協会	太田信之
刈谷市肢体不自由児・者父母の会	藤井孝
刈谷手をつなぐ育成会	篠原幸弘
刈谷地域精神障害者家族会	長谷川宏
危機管理課	早川啓太

### 3 報告事項

#### (1) 障害者防災部会について

障害者防災部会は「災害時における障害者支援の充実」を目的として令和7年度から新たに設置された部会であり、当事者の視点を取り入れた「障害者防災マニュアル」を作成していくことを部会員間で共有した。

#### (2) 障害者防災マニュアル案について

障害者防災マニュアルの構成、内容について意見交換を行った。マニュアルは5章の構成であり、第1章・2章では、障害のあるなしに関わらず、災害への備えや災害時の行動例をテーマに、防災気象情報の入手方法や備蓄品について記載。

第3章は、障害に応じた準備と対応として、障害特性や普段からの備え、支援のポイントについて、第4章は、避難所の一覧や避難の流れを記載し、第5章は、防災関グッズとして、災害時障害者支援用バングダナやヘルプマークの紹介をしている。

意見として、在宅避難を推奨するため、耐震補強や家具固定に関する明記することや、福祉避難所について、役割や備蓄の一覧等の詳細を記載することが挙げられた。その他、意見がある場合は、各自第2回の開催までに事務局へ伝えることとなった。

#### 4 今後の取組み及び検討事項等

##### （1）防災マニュアルについて

部会員から出た意見をもとに防災マニュアルの修正を行う。また、部会に参加していない障害者団体へヒアリングを行い、より当事者の視点を取り入れたマニュアルを作成していく。

##### （2）障害者防災に関する課題解決に向けた取組みについて

防災マニュアルの活用方法や部会員から挙げられた課題に対して、具体的な取組みについて検討を行う。